

障害者や生活困窮者、ひきこもりの状態にある者などの「働きづらさ」や「生きづらさ」を抱える方を受入れ、農作業や集団生活を通じて「自立のための支援」を行うソーシャルファーム。高品質のチーズは世界的に高い評価を得ている。

基本情報

- 所在地：北海道新得町
- 団体名：農事組合法人共働学舎新得農場
- 選定表彰：平成10年 オールジャパン・ナチュラルチーズコンテスト畜産局長賞（最高賞）、平成16年 山のチーズオリンピック（スイス）金賞・グランプリ、令和2年 Japan cheese Awards金賞（最優秀部門賞）、令和3年 World Cheese Awards金賞など 国内外で多数の賞を受賞
- 主力商品：「さくら」、「ラクレット」、「シントコ」などのチーズ、野菜



チーズ各種



農場ガーデン

取組の概要

- 農事組合法人とNPO法人の2つの組織により構成。農事組合法人は農業生産・加工・販売の場、NPO法人は主に生活の場。
- 農場の消臭等環境対策として「炭」を用いるなど、日本の伝統的な知恵を生かし、その土地にあった農業生産やモノづくりを推進。
- 農事組合法人では、農作業、家畜の世話や畜舎の管理、乳加工品製造、木工や工芸などの作業のほか売店やレストランに関する作業があり、農事組合法人からNPO法人に対して、チーズ製造や農作業などの生産に係る作業を委託。
- 多種多様な作業があるため、メンバーが自分にあった作業を選択することにより、自分の役割を見いだせるように工夫。日々の作業にあたって、主体的に行動できる環境を構築。
- 生産した農産物は、外食事業者へ販売するほか、敷地内の売店やカフェ、インターネットで販売するなど、6次産業化にも取り組む。



チーズ熟成庫

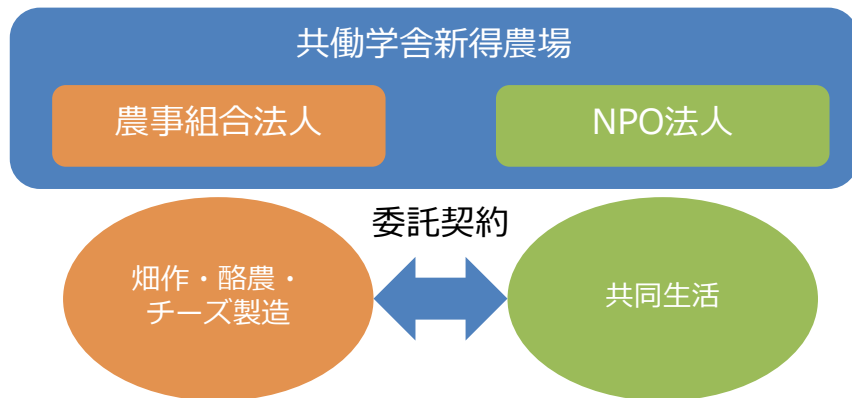


給餌風景

取組の成果

- 自らの意志でその日の行動を選択できることにより、主体性のある考えと思いやりの心が育まれる。
- 素早い作業が苦手でも、質の高い丁寧な手作業により高品質な商品を作ることができる。これにより、社会参加を自覚できるほか、精神的ゆとりを持つことが可能となっている。
- 農場での経験を生かし、自身でチーズ工房を立ち上げる者、チーズ工房に勤める者や農業を営む者など、自立した生活を実現した者を多数輩出。

体制図



所在地 ▶ 北海道上川郡新得町字新得9-1

連絡先 ▶ TEL:0156-69-5600 E-mail:shintoku@kyodogakusya.org

ウェブサイト ▶ <https://www.kyodogakusya.org/>

【取組のプロセス】

昭和47年

牧場作りの準備

きっかけ

- 代表の父親が「自労自活」をモットーとする共働学舎を長野県に開設

酪農を学ぶため海外留学

- 代表は、世界に通用する酪農業を学ぶため、米国ウィスコンシン州へ渡り、酪農実習及び大学留学。

十勝の新得町に招かれ共働学舎新得農場開設

- 障害者や生活困窮者などの社会参画や、触法者や非行少年の立ち直りの場として、また、家庭生活や社会生活において「生きづらさ」を抱えている人々の働く場として、共働学舎の4番目の農場となる新得農場を開設。

乳加工品で自立を目指す

- 乳牛を飼育し、チーズの製造・販売を開始するため、フリーストール牛舎、搾乳室及び乳製品加工施設（チーズ工房）を建設。

交流センター「ミントル（売店、カフェ）」完成

- 多くの人たちとの出会いの場、交流の場として「ミントル」（アイヌ語で「広場」、「人の行き交う場所」の意）を開設し、製造したチーズの販売やチーズ料理などの飲食提供を始める。

「これまで」も「これから」も

- 「生きづらさ」を抱える人々が活躍できる場として、これまでどおり「ゆっくりした空気感」を大切にしたい。
- 牛には無理な乳量を求めず、人にもゆったりした環境を維持しつつ、営農を継続するために、免疫力を高めるなどの高品質で付加価値のある製品を安定して製造していきたい。

昭和53年

平成3年度畜産基地建設事業を活用し加工施設を建設

平成4年

地域交流や生産物の販売を模索

平成16年

平成15年度地域畜産活用交流推進事業の活用し、交流センターを建設

今後の展望



放牧風景



メンバー集合写真



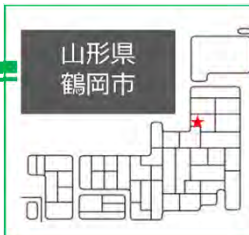
チーズ工房外観



ミントル店内



ラクレットオープン



社会福祉法人月山福社会が運営する多機能型事業所「作業所月山」は、平成23年から本格的に畜産事業に取り組み始めた。現在、知的障害者を中心とする施設利用者39名が、月山短角牛の飼育のほか、県特産の「だだちゃ豆」や果樹の生産とジャム製造等に取り組んでいる。

基本情報

- 所在地：山形県鶴岡市
- 団体名：社会福祉法人 月山福社会
- 選定表彰：－
- 主力商品：月山短角牛、だだちゃ豆、落花生、庄内柿、等
- イベント：月山夏祭り、作業所月山チャリティーショー



取組の概要

- 令和2年度から庄内町所有牧場を指定管理者として借り受け、無農薬の牧場に改良後、日本短角種55頭を放牧し国産粗飼料（牧草）のみで飼育。翌年5月から「完全国産牧草牛」として出荷開始。放牧は、放置された放牧地の再生にも寄与している。
- 地域交流の一環として、作業所月山チャリティーショー等のイベントを継続して実施。
- 障害者は畜舎の清掃や給餌、農産物の種まきや収穫、等の作業を行っている。
- 約4haの畑と100坪のハウス2棟で、県特産「だだちゃ豆」、落花生、かぼちゃなどの野菜、庄内柿またブルーベリー、イチジク等を栽培し、ジャムに加工し販売。



短角牛の放牧の様子



短角牛の仔牛の世話



だだちゃ豆の農作業風景

体制図

社会福祉法人
月山福社会

多機能型事業所
「作業所月山」

多機能型事業所
「スローク新町」

放課後等デイサービス・体験事業
「アトリエ」

相談支援室
「一柳」

取組の成果

- 作業所月山で働く利用者39名のうち農畜産部門で働く人数は8名。農畜産物そのものの「質」で勝負することで利用者の工賃向上の実現に取り組んでいる。B型利用者31名全体の平均工賃が21,000円であるのに対して、農畜産部門の8名は29,000円。
- 農畜産部門の利用者は取組当初の3名から8名に増加。農地面積は取組当初の148aから285aへと増加し、飼育頭数も55頭まで増加している。
- 障害者が県の特産品である「だだちゃ豆」の生産に関わることで、県特産品の生産量の維持に貢献。

所在地 ▶ 山形県鶴岡市中野京田字壺柳4-1

連絡先 ▶ TEL:0235-24-8541 E-mail:ichiyana@sea.plala.or.jp

ウェブサイト ▶ <https://www.gassanhukusikai.com>



【取組のプロセス】

農家の高齢化による多くの荒廃農地

平成16年

きっかけ

高齢化による荒廃農地の増大等、中山間地の荒廃を憂い、この土地を利用することで自然環境保全に取り組むとともに、土や牛と触れ合うことによる障害者の情緒面での効果を狙った。

本格的な農畜産事業の開始

- 3,500万円の借入れをし中古牛舎を取得。
- 牧草だけで飼育できると聞いた岩手発祥の「日本短角牛」を買い付け。しかし岩手では配合飼料による飼育をしているとのことで、月山福祉会もそれに倣う。
- 繁殖・肥育一貫経営の開始。

短角牛の肥育・繁殖農家の減少による仔牛の高騰

平成23年

飼育方法の転換

- アンチエイジングで有名な医師のアドバイスにより、牧草だけでの飼育にこそ短角牛の価値が生まれると気付く。
- 同じく牧草のみで短角牛を飼育する八雲農場（北里大学獣医学部）の指導により、短角牛による放棄牧場の再生と肉質に関する共同研究を開始。飼育全般に関して助言をいただく。

消費者の食への安全・健康志向の高まり

平成29年

大きな夢への挑戦！！

- クラウドファンディングを活用し、放牧場経営に最低限必要な機材の購入費1,200万円を調達。
- 放置されていた44haの庄内町所有の放牧場を指定管理者として借り受ける。
- 青果市場へ野菜の出荷を開始。（長ネギ・にんじん・かぼちゃ）
- 令和3年にスターゼンミートプロセッサー（株）から完全国産牧草牛の価値とそのおいしさを御理解いただき、取引を開始。
- 現在の飼育頭数は55頭。

クラウドファンディングの活用

令和元年

放牧農家減少による公営放牧場の放棄

今後の展望

工賃向上で利用者の自立した生活を

- 一貫経営で出荷頭数を徐々に増やし、短角牛150頭飼育、年間出荷頭数70頭、年間出荷額5,000万円のデッカイ夢を描いている。
- 令和5年度には「有機JAS認定牛」の認定取得を目指して、短角牛の付加価値を上げていく。
- 障害者と共に完全国産牧草を使用した短角牛を育て、その収益で工賃を53,000円にアップし障害者年金とあわせて113,000円を確保することで、利用者が自立した生活が出来るようにすることが最終目標。



短角牛の仔牛の世話



短角牛の仔牛の世話



短角牛の放牧の様子



月山福祉会と北里大学との共同現地調査の様子



地元の重要な産業であった養蚕業の再興に利用者とともに取り組み、ノウフクJAS、6次産業化の認証取得により、農業から製造加工、販売、レストランでの接客等利用者の個性に応じた働く場の確保、農産品の付加価値化を図り工賃の向上を実現。

基本情報

- 所在地：栃木県小山市
- 団体名：社会福祉法人パステル
多機能型事業所CSWおとめ
- 選定表彰：－
栃木県農業大賞栃木県知事賞（令和2年度）
- 主力農産物：桑の実、桑の葉、落花生、満願寺唐辛子、ビーツ、かぼちゃ、小松菜など
- 主力商品：桑茶、桑ジュース、桑の葉をパウダー化し練りこんだうどん、パスタ、菓子類、ジャムなど



桑ジャムセット

取組の概要

- 多機能型事業所として、知的、精神障害者等の21名で、桑畑、落花生、野菜畑の管理、収穫に取り組む。栃木県農業アドバイザーから指導を受けた職員が、農作業マニュアル等を使用し利用者に作業手順をわかりやすく指導。
- 7,000坪の桑園で桑の栽培を行い、6次産業化事業認定、ノウフクJASの認証を受け、桑茶等の桑の葉を使った関連食品等の製造に取り組み、商品は地元の小売店やインターネット通販等で販売。
- 併設しているレストランに、無農薬で栽培したビーツ、玉ねぎ、小松菜等を供給するとともに、レストラン内の販売コーナーで、自ら生産した野菜に加え、地元の方が生産した野菜を利用者が販売し、地域との連携を図っている。



パステルCSWおとめ桑園



収穫作業



ノウフクJAS製品（一例）



売店で野菜の販売

体制図

社会福祉法人パステル

多機能型事業所CSWおとめ

- 農業班
- パウダー班
- パン工房部
- レストラン“みゆげ・ど・ぱすてる”

多機能型事業所フロンティアおやま

- 養蚕事業班

地域野菜生産者グループ、地域住民、小学校等

取組の成果

- 平均工賃35,000円を達成、月10万円を上回る利用者も。
- ノウフクJASの取得により市内スーパーのマルシェ内に「ノウフクJAS」コーナーが設置され販売を開始。
- 桑の葉の需要増により、桑園が開設当初の2,200坪から7,000坪へ拡大。
- 桑の葉、桑の実収穫では地元住民、小学校の協力が得られ地域との連携が強化。
- 農業収入は840万円になり、取組当初の平成29年から2倍以上に拡大。

所在地 ▶ 〒329-0214 栃木県小山市乙女625-2

連絡先 ▶ TEL:0285-39-6088

E-mail:info@fukushi-pastel.jp

ウェブサイト ▶ <http://fukushi-pastel.jp>

【取組のプロセス】

平成27年

「フロンティアおやま」が養蚕事業を開始。桑の葉をテーマに6次産業化事業認定

きっかけ

地元の伝統産業を再興するため養蚕業に参入。桑の葉をテーマに6次産業化事業の認定を受けて桑関連食品の生産に取り組む。

平成29年

多機能型事業所「CSWおとめ」を開所、レストランと桑園を併設

荒廃農地を利用して養蚕業、農産物の生産に取り組む

- 桑の葉、桑の実の生産に加え、万願寺唐辛子、ビーツ、かぼちゃ、玉ねぎ、小松菜、落花生等を生産。
- 桑の葉から、桑茶、桑の葉をパウダー化し練りこんだパスタ、パウンドケーキなどの菓子類の商品、桑の実からジャム、アイスクリームなどの商品を販売。



桑の葉の収穫



桑茶及び桑ジュース

令和2年

桑、落花生でノウフクJAS認証

利用者の工賃の向上

- 栃木県平均を上回る平均工賃35,000円/月を実現。10万円/月を上回る工賃を得る利用者も出て、自立自活の実現に向けて取組を推進。

地域との連携促進

- 桑の葉・桑の実の収穫は、地元小学校の児童、地域野菜生産者グループ、民生委員、地域住民の方の協力により行い、地域連携を促進。



桑の葉うどん

令和3年

桑の実ジャムをテーマに6次産業化事業認定

ノウフクJAS、6次産業化事業認証取得

- ノウフクJAS、6次産業化の認証取得により、農業から製造加工、販売、接客等利用者の個性に応じた働く場の増加とともに、農産品の付加価値化につなげる。特に桑の葉、桑の実に健康に良い成分が含まれていることから栄養成分等の分析を行い、消費者にアピールし、桑の葉、桑の実を用いた商品開発を推進。
- ノウフクJASの取得により市内大手スーパーのマルシェ内に「ノウフクJASコーナー」が設置され、販路拡大に。



桑パスタ

今後の展望

地域の荒廃農地を緑の桑畑に

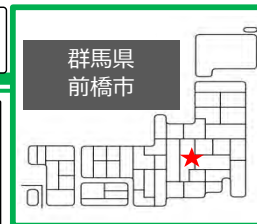
- 桑茶などの桑関連食品の開発販路拡大を図り、さらなる桑園の規模拡大で地域の荒廃農地を再生し地域産業の再興を図る。
- 桑農園を核とし農業体験や桑の葉、桑の実収穫を基に地域産業の活性化を図る。



併設のレストラン



パウンドケーキづくり



利用者の能力を引き出せる作業環境をつくり、高い工賃による賃金収入と障害者年金により障害者の自立した生活を促し、一般事業所での就職チャレンジを支援。

基本情報

- 所在地：群馬県前橋市
- 団体名：社会福祉法人ゆずりは会
障害福祉サービス事業所菜の花
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021審査員特別賞（人を耕す）、関東農政局「ディスカバー農山漁村の宝」選定（令和4年度）
- 主力商品等：たまねぎ、えだまめ、ほうれんそう、ブロッコリー、キャベツ、長ねぎ、にんにく、米、ビール麦、育苗、ライスセンター運営



水稲の育苗



たまねぎ苗の出荷

取組の概要

- 約14haの農地で、えだまめ、たまねぎ、ブロッコリー、ほうれんそう、長ねぎ、キャベツなどを栽培。運営するライスセンターによる乾燥調製作業を受託。
- 無肥料・無農薬の自然栽培による米作りや野菜を生産し、安全安心で環境に負荷をかけない取組を広げる。
- 出荷規格に合わない野菜（「もったいない野菜」）を地元の食品企業へ持ち込み、「ノウフクぎょうざ」を外注製造。
- 障害者の農作業は、職員が一人一人の特性を見極めて作業に配慮。
- 認定農業者であり、正組合員として地元農業協同組合に加入している。
- 京都西陣麦酒と連携し、農福連携クラフトビール・プロジェクトに参画し、毎年ビール麦を栽培。



地元小学生との田植え



乗用機械でのほ場管理



枝豆の収穫作業



収穫した農産物の出荷

体制図

社会福祉法人ゆずりは会

就労継続支援B型事業所：菜の花、ゆずりは、エール

就労継続支援A型事業所：かたばみ

共同生活援助事業所：フォルテ

近隣農家

教育機関

民間企業

取組の成果

- 耕作面積：取組当初(平成26年)の約4haから約14ha（令和4年）に拡大。
- 平均工賃（月）：約54,000円（令和3年）となり、群馬県内の中でもトップクラス。取組当初約27,000円から約2倍以上に上昇。
- 乾燥受託：取組当初の13件から年々拡大し、60件（令和4年）となり、約4.6倍に増加し、地域の基幹作物である米の生産維持に寄与。
- 野菜苗の生産：たまねぎの苗は、県外福祉事業所に10万本以上販売。

所在地▶群馬県前橋市青梨子町379-1

連絡先▶TEL:027-226-6090 E-mail:nanohana2014@rose.plala.or.jp

ウェブサイト▶<https://www.yuzurihakai.org/corporate/nanohana/index.html>

【取組のプロセス】

平成26年

JAが共同乾燥施設内の乾燥機を譲渡

平成27年

荒廃農地の増加
地域活力の低下
工賃の向上

平成28年

より一層の工賃向上を目指し、農業路線を拡大
一部、自然栽培にもチャレンジ開始

令和元年

地元保育所、小学校との連携開始

令和2年

法人として
認定農業者に認定

令和3年

栽培面積13haになるとともに、農業による平均工賃5万円を達成

農福連携で工賃向上が可能であることの全国モデルになることを目指して活動を前進

今後の展望

きっかけ

利用者の工賃向上と活躍の場の拡大のため、農業路線を拡大。

近隣農家等との農福連携

- JAが運営していたライスセンターの廃止により、乾燥機を譲り受け、乾燥調製作業を受託。共同乾燥ではなく、農家毎に個別乾燥を実施。
- 米の苗生産、委託販売を開始、認定農業者として地域の担い手に。
- 近隣社会福祉事業所へ玉ねぎの苗の販売や稲刈り作業の受託等による連携。

農業における機械化を推進

- 畑や田んぼでの作業はできるだけ機械化を進めることで、手間のかかる出荷作業に多くの利用者を配置。また、機械を使用できる利用者が増えてきたことで、出荷量が伸びている。

教育機関や企業との連携により障害者が地域で活躍できる場づくり

- カシオ計算機（株）による一反パートナー制を開始。社員の農業体験やカシオ社員食堂で自然栽培米を提供する「なのはな応援プロジェクト」に取り組む。
- 地元の保育所、小学校との無肥料・無農薬の自然栽培による田植え、稲刈りの体験を実施し、地域との連携を推進

他業種等との農福連携

- 京都西陣麦酒により農福連携クラフトビール「ふぞろいの麦たち」が完成。自然栽培によるビール麦栽培で参画。
- 地元食品企業による規格外野菜を用いた餃子の外注製造「ノウフクぎょうざ」が完成。

高工賃と就労の実現に向けて

- 収益性の高い取組と、誰もが一般企業等での就労に向けたチャレンジができる活動を継続。
- 地域農家からの信頼が、障害者の仕事ぶりにつながっており、今後も連携するパートナー達との輪を拡大し地域農業の活性化にもつなげていく。



ライスセンター作業



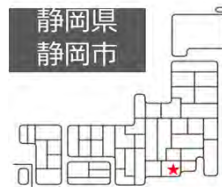
稲刈りの応援



ほうれん草の出荷



地元小学生の稲刈り体験



天候に左右されず周年栽培を行える環境を生かし、独自の出荷基準と糖度基準を設けた高糖度トマト『アメーラトマト』として商品化。ブランド化により安定生産を実現し、直営農場で障害者3名を直接雇用。

基本情報

- 所在地：静岡県静岡市
- 団体名：株式会社サンファーマーズ
- 選定表彰：
 - 日本農業賞特別賞（平成24年）
 - イノベーションアワード金賞（令和4年）
- 主力商品：アメーラトマト
（高糖度トマト）の生産販売
- イベント：市役所での販売、幼稚園との連携による収穫体験など



苗の定植作業

取組の概要

- 社内に福祉農業部を立ち上げ、直営福祉農場を新設。障害者の直接雇用と福祉事業所への作業委託により農福連携によるアメーラトマトの生産を行う。
- 直営福祉農場では、トマト栽培で発生した残渣をたい肥化し、幼稚園と連携した食育活動の実施や、特別支援学校からの職場実習の受け入れを行う。
- アメーラトマトの生産農場と福祉サービス事業所の中間サポートを行うとともに、10か所の福祉事業所に対して、作業の一部を委託し、知的障害、精神障害、身体障害（車いす利用者）が農作業に取り組む。



福祉事業所の施設外就労によるポット回収



主力商品「アメーラトマト」



【直接雇用障害者】作業風景



【幼稚園連携】収穫体験

体制図

株式会社サンファーマーズ

サンファーマーズ 直営福祉農場（静岡県藤枝市）
（障害者雇用3名）

福祉サービス事業所との業務連携2社
幼稚園との連携（食育活動）

アメーラトマト生産農場（静岡県11箇所、長野県3箇所）

福祉サービス事業所との業務連携8社

取組の成果

- 平成28年から障害者雇用を始め、知的障害者3名を雇用。一般の従業員と同じ賃金で雇用し社会保険にも加入。
- 特別支援学校や福祉サービス事業所から、これまでに21回の実習を受け入れ、実習から雇用につなげた。
- 車いすの方でも活躍する場ができています。
- 10か所の福祉事業所に対して、農場の作業の一部を委託している。
- 令和3年度には8か所の福祉事業所の連携により80名の利用者が活躍。

所在地 ▶ 〒422-8072 静岡県静岡市駿河区小黒2丁目5-10

連絡先 ▶ TEL:054-282-2756 E-mail:yamazaki@amela.jp

ウェブサイト ▶ <https://www.amela.jp>

【取組のプロセス】

平成26年

福祉農場を新設し、障害者雇用、福祉サービス事業所との連携の基盤を作る。

きっかけ

福祉関係者からのアドバイスで、トマト栽培は周年作業で年間に同じ作業を繰り返し行うことから障害者が活躍できる環境があると知った

平成29年

0.6haの直営福祉農場新設（温室ハウス）

障害の特性と農作業のマッチング

- 選果作業では、障害の特性から不良品の発見に長けた方がいるなど、障害者雇用がアメリカトマトブランドの維持に大きく貢献している。
- 福祉農業部を立ち上げ、福祉の知識のあるものが農場の管理を行っているため特化したジョブコーチの役割を兼ねている。
- 指導計画書を作成し指導することで、雇用している障害者が着実にステップアップできるよう取り組んでいる。

幼稚園との連携開始

令和元年

社内に福祉農業部を立ち上げ

地域との連携

- 障害者雇用をきっかけに藤枝市役所で販売会を行い、障害者の活躍の場が拡大してきた。
- 特別支援学校の実習の受け入れや幼稚園との連携では、雇用している障害者もイベントの企画立案から実行までかわり、地域との連携が推進している。
- 幼稚園との食育活動においては、幼稚園の保護者参観のイベントとしても食育活動を行い地域との連携の強化を図っている。

令和元年に障害者雇用が3名に

令和3年

連携する福祉事業所が10か所に

直接雇用と福祉事業所との連携

- 直営福祉農場のスタッフ8名のうち、3名を障害者雇用している、当初は作業が限定的であったが現在はすべての栽培にかかる作業を行えるようになり大きな戦力となっている。
- 令和4年時点で10の福祉事業所と連携している。福祉事業所ごとに利用者の障害の程度は様々だが、それぞれが特色を生かしながら作業に携わっている。

今後の展望

障害者が従業員の一人として成長し、定着し農場運営の戦力へ

- 連携している福祉事業所の利用者からの自社雇用が決まるなど、福祉事業所は重要なパートナーとなっている。今後も雇用した障害者が定着できる支援体制となっていくよう、福祉事業所との連携を強化し、障害者とともに企業としての成長を目指す。



作業風景



地域での販売会



特別支援学校の実習の様子



【幼稚園連携】
保護者参観会